

<コロナが少し落ち着きました>

8月、9月に猛威を奮った新型コロナウイルスですが、急に落ち着きましたね。この第5波が収まった理由は各種専門家もよく分かっていないと言います。しかし、日々危機感を持って過ごさなければいけなかった当時のことを思うと、少し気持ちを楽にして、出かけたり人と接したりすることができるようになりました。基本的な感染対策は継続しつつ、できる限り生活を楽にしたいですね。

第5波のピーク時、当院の発熱外来でも毎日コロナ陽性の患者様がいらっしかったです。高熱、強い倦怠感、頭痛、咳が止まらないなど、よく言われる典型的な症状の方々が次々といらっしかったです。「デルタ株」の感染力が強いと報道されていた時です。それぞれ、家庭内に一人でも感染された方がいらっしやると、間違いなく家族全員に感染する状態でした。来院された時は歩いて元気にお話されていた方が、翌日には救急搬送され入院される状態になることもあり、新型コロナウイルス感染症の恐ろしさを肌で感じた時期でした。

コロナワクチンの接種が進み、段々と不安は解消されつつあります。12月からは2回目接種から8ヶ月以上経過した方々から順に3回目のワクチン接種がスタートするようです（当院での予定はま

だ未定ですが、決定次第ホームページや院内掲示でお知らせします)。さらにコロナに対する免疫を高め、以前のような不安な生活を送らなくて済むようにしたいですね。



<ワクチンの大切さ>

ワクチンはとても効率的に病気に強くなる方法です。赤ちゃんの頃から我々はたくさんのワクチンを接種し、そのおかげで数々の病気から守られてきました。最近積極的に接種することを推奨されているワクチンが、「風疹ワクチン」「子宮頸がんワクチン」「带状疱疹ウイルスワクチン」です。いずれも当院での接種はしていませんが、情報のお知らせをしておきますね。

風疹ワクチン

小児の定期接種ワクチンの一つで、主に「MR（麻疹・風疹）ワクチン」として接種されています。接種することにより95%以上の人が免疫を獲得できると言われています。風疹は妊娠20週までの女性が感染すると、生まれてくる子どもが「先天性風疹症候群（眼、耳、心臓に障害を持つ）」という疾患に罹患する可能性があります。また、昭和37年度から平成元年度に生まれた女性及び昭和54年度から平成元年度に生まれた男性は、ワクチン接種回数が少なく、受けていても1回です。そして、昭和54年4月1日以前に生まれた男性は1回もその機会がなく、十分な免疫を持っていません。現在、自治体によって無料の抗体検査やワクチン接種が実施

されています（津市は昭和 37 年～54 年生まれの男性や、妊娠予定者、妊娠希望者、その同居者などが対象）。詳しくは三重県や各自治体のホームページをご参照ください。

先天性風疹症候群の子どもを持ったお母さんたちが立ち上げた啓発団体に「風疹をなくそうの会 hand in hand」というところがあります。私が気道異物の啓発活動をしている関係で、SNS を通じて代表の方と知り合いになりました。生まれてきたお子さんの障害を目の当たりにし、妊娠中に風疹にかかってしまったことをずっと責め続けた彼女たちの苦しい過去は、いつ伺っても本当に切ないものです。知識さえあれば、そしてワクチンで予防さえすればこのような思いをする人がいなくなる。そういう強いお気持ちで活動をされています。国会議員や大臣など、国を代表する方々への働きかけもされています。Facebook やホームページで活動の様子がわかりますので、是非ご覧になってみてください。そして、一人でも多くの方がワクチンを接種し、風疹にかからないように、風疹を移さないようにできるといいですね。

子宮頸がんワクチン

子宮頸がんは HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染により生じると言われ、諸外国ではワクチンによる予防が普及しています。日本は、このワクチンによる副反応が取り沙汰されてから積極的な接種を推奨してきませんでした。しかし、がんの予防に非常に有効なワクチンであることが分かっており、最近また接種を呼びかける動きが出ています。現在、小学校 6 年生～高校 1 年生の女子が定期接種の対象（無料）です。



「サーバリックス（2 価）」と「ガーダシル（4 価）」という 2 種類のワクチンがあります。いずれも 3 回の接種が必要です。さらに効果が高いと言われる「シルガード（9 価）」も接種可能になりましたが、こちらは自費でかなり高額です。現在、日本産婦人科学会のホームページや「みんなピピ！」というサイトに詳しく情報が載せられています。また、厚生労働省の HP から一般向けリーフレットがダウンロードできます。子宮頸がんの発症は 20 代からみられ、毎年 1.1 万人が罹り、約 2800 人が亡くなっていると言われます。ワクチンでがんが予防できれば、これほどいいことはありません。ぜひご家族で話し合って接種をお考えください。

帯状疱疹ウイルスワクチン

帯状疱疹は子どもの頃にかかった水疱瘡のウイルスによって起こる病気です。水疱瘡のウイルス（水痘・帯状疱疹ウイルス）は、我々の体の神経内に潜んでいて、普段は何もしませんが、免疫力が落ちると急に活性化して発疹や強い痛みを起こします。発疹の場所によって症状が異なりますが、耳鼻科領域では顔面神経麻痺や難聴、めまい、嚥下障害、声枯れなどが生じることがあります。また、発疹が治ってもその後の神経痛に長期間悩まされる方もあります。顔面神経麻痺や難聴は、このウイルスによって起こると治りにくい傾向にあります。50 歳を超えると発症する方が増えると言われていました。このため 5 年ほど前から日本では帯状疱疹の予防のためにワクチンが使われるようになりました。まだまだ普及していませんが、50 歳を超えたら辛い帯状疱疹にかかる前に接種を検討してみてください。